

# JLT220 日本の近代文学

2年 3,4クォーター

担当教員 中川 智寛

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 火曜日・4時限

## 授業概要

本科目においては、国文学、とりわけ日本の近現代文学を学習する上で必要な基礎的な知識と、解釈・批評に関する基本的な方法の習得をめざすとともに、それらを作品の鑑賞・理解に応用できることを授業の目標とする。具体的には、日本近世・近代文学についての歴史的知識に基づき、近世期から明治・大正・昭和前期の作家とその代表的作品を概観し、鑑賞と批評の観点から、その具体的な作品に触れつつ、作家と作品の特質についての理解を深める。併せて、近代文学の成立と展開について考える。

## 到達目標

時代背景や作者の特質を押さえながら、自分なりの鑑賞眼を養う事。

## 先修科目

なし

## 教科書・参考資料等

特にないが、事前に読了が求められるものがあれば、余裕をもってアナウンスする。

## 授業の方法

原則、講義形式。

## 成績評価

筆記試験を基にし、毎授業時に作成・提出してもらおうリアクション・ペーパーの内容で平常点を加味する。

## 成績

平常点の割合は最大で30%とする。

## 授業スケジュール

第1回： ガイダンス、進行方法・評価方法・参考文献の説明

第2回： 志賀直哉「城の崎にて」、私小説の定義

第3回： 白樺派と芸術との関連

第4回： 第3回の続講、特に芸術サイドの動向

第5回： 歴史小説と時代小説

第6回： 芥川龍之介「開化の殺人」、開化期の文学

第7回： 菊池寛「形」、近代文学における菊池の役割

第8回： 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、プロレタリア文学の実態

第9回： 安部公房「空飛ぶ男」、安部の文学と映像の関係性

第10回： 俳画研究 野々口立圃、西山宗因など

第11回： 俳画研究 松尾芭蕉、森川許六など

第12回： 俳画研究 正岡子規、高浜虚子など

第13回： 近現代詩 長田弘、寺山修司など

第14回： 近現代詩 山本陽子など

第15回： 試験

#### **事前・事後学習**

---

事前に読了を課された作品・参考文献がある場合には、それに従う事。